

令和2年度 第1回倉吉市いきいき長寿社会推進協議会（要旨）

日 時：令和2年10月20日（火）13時30分

場 所：倉吉市役所 第2庁舎201会議室

【出席者】

〔協議会委員〕

坂本 操氏(倉吉市社会福祉協議会)
池本 義雄氏(倉吉市民生児童委員連合協議会)
稲嶋 敏彦氏 (倉吉市公民館連絡協議会)
前田 紀一氏(倉吉市老人クラブ連合会)
村尾 和広氏(鳥取県老人福祉施設協議会)
石川 裕子氏(鳥取県老人保健施設協会)
小南 哲氏(鳥取県社会福祉士会)
田中 恵理氏(鳥取県介護支援専門員連絡協議会中部支部)
加藤 良樹氏(マグノリア地域包括支援センター)
田中 美史氏(公募委員)

〔オブザーバー〕

花田幸子氏 (うつぶき地域包括支援センター)
樋口あゆみ氏(倉吉中央地域包括支援センター(上灘・成徳))
長屋里美氏(明倫・小鴨地域包括支援センター)
田中直美氏 (かもがわ地域包括支援センター)

〔事務局〕

東本和也(健康福祉部長)、山本英明 (長寿社会課長)、牧田憲一(長寿社会課課長補佐兼
高齢者福祉係長)、濱路由布子(長寿社会課介護保険係長)、河本千鶴栄 (主任保健師)、
向井聖子(専門員)鳥飼道恵 (主任)

【議事内容】

- 1 開 会
- 2 部長あいさつ／自己紹介
- 3 会長、副会長選出 会長 坂本 操氏(倉吉市社会福祉協議会)
副会長 池本 義雄氏(倉吉市民生児童委員連合協議会)
- 4 報告事項
(1) 令和元年度介護保険事業特別会計の決算について ……資料1
(2) 第7期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の進捗状況について……資料2
- 5 協議事項
第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定方針について……資料3
- 6 その他
- 7 閉 会

【協議事項における委員からの主なご意見】	
■ 第 8 期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定方針について	
<会長>	<p>【介護予防について】</p> <p>第 7 期の介護保険現状報告の中で、65 歳以上の認定者数が横ばいとあったが、地域包括支援センターの努力が相当あったのでしょうか？</p>
<委員（包括）>	<p>地域包括支援センターの介護予防・認知症予防事業の取組みもあるが、地域のサロンなどの取組みで運動する機会などを積極的に持っていていただくことや、ここ 10 年は 75 歳以上人口がさほど増えていないことも要因。この先 10 年は 75 歳以上人口が増加するので、要介護となる方を増やさないためには、予防にもっと力を入れていかなければならないと思う。</p> <p>地域包括支援センターとしては、介護予防のプラン作成業務の比重が高いと地域の予防教室や活動に積極的に介入することが難しい。何とか地域包括支援センターだけではなく、いろんなところと連携を取りながら、頑張っていけたらいい。</p>
<委員>	<p>【福祉人材について】</p> <p>介護を要する人が増える中、介護を担う人たちがいなければ介護ができない。介護予防等にしても、そこで活躍する人たちを確保しなければ介護予防は進まない。その辺りについて倉吉市としてのお考えは？</p>
<事務局>	<p>今日の資料 3 の中に人材確保という記載はできていないが、本当に必要な観点であり、第 8 期計画期間 3 カ年のその先の 2025 年までを見据えて、基本的な事業の中で捉えられる内容については盛り込みたい。</p>
<委員>	<p>【在宅医療・介護連携について】</p> <p>第 7 期計画期間中の成果と、「推進」から「体制整備」と言葉を変えているあたりの考えをお尋ねしたい。</p>
<事務局>	<p>第 7 期の主な具体的な取組みについてご説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療職・介護職合同の研修会、職能団体や医療機関の地域連携室との意見交換 ・医療機関・介護施設の情報を集約した「しよいやの会」サイト立ち上げ ・入退院ルールの作成と運用状況の確認など。 <p>今後の体制整備については、新型コロナウイルスの感染拡大防止にも配慮を要するため、医療機関の意向を確認しながら検討させていただきたい。</p>
<委員>	<p>【災害・新型コロナウイルス感染症対策について】</p> <p>災害や感染症対策については、基本目標や施策のどの項目に盛り込む予定か？</p>
<事務局>	<p>災害については、「地域で支えあう地域共生のまちづくり」や「介護サ</p>

	<p>ービス提供の確保・充実等」、感染症については、施策「医療介護連携」や「必要な介護サービス提供の確保・充実」を予定している。</p>
<p><委員></p>	<p>【介護保険料】</p> <p>第8期介護保険料(案)の基準額月額6,362円の根拠は?第7期と同額ということ?</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少したことによる保険料減免件数が増加している状況を勘案して、基金残高を取り崩してでも安くすることはできないか?</p>
<p><事務局></p>	<p>基金を取り崩して第7期基準額月額6,392円と同額に据え置こうとするもの。</p> <p>基金の取崩額を増やして保険料を引下げる検討もいたしました。新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、給付費用がさらに必要になる可能性もあり、ある程度基金は弾力性がある方がいいと判断した。</p> <p>また、保険料の減免が増えてくるということは、収入が減ってくるということなので、保険料を払いにくくなることも起こるかもしれない。そういった場合には、暫定的にその年だけ減額することも可能であり、その辺は財政運営を見ながらさせていただきたい。</p> <p>保険料を下げる論もやってきた中での結論、方向性ということでご理解いただければと思う。</p>
<p><委員></p>	<p>【市民後見人について】</p> <p>市民後見人という言葉も、キーワードとして入れてはどうか。市民後見制度は、多様な分野の人々をつなぐ共通言語となり得るものであり、縦割りではない横軸になるような制度、地域共生社会に役立つ大きな可能性があると考えます。ご検討いただきたい。</p>
<p><事務局></p>	<p>必要な観点と認識しており、十分に盛り込みたい。</p> <p>現在、後見の担い手育成のため市民後見人養成事業を市社会福祉協議会へ委託して実施しており、また、権利擁護に関する事業については、現在、第8期計画よりも詳細な内容をまとめた計画を策定する準備を進めており、令和3年度中には完成予定。</p>
<p><委員></p>	<p>【コロナ禍における目標値設定】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響でボランティア活動等へ参加しにくい状況下であり、第7期同様に目標値を参加者人数に設定すると、目標自体が非常に少ない人数になってしまうだろう。参加人数以外の、例えば取組の回数等で評価されるのが良いだろう。</p>

<事務局>	評価の仕方・項目については十分に協議していきたい。
<委員>	<p>【コロナ禍における取組について】</p> <p>新型コロナウイルスの対応（特効薬・ワクチンなど）には、今後3年ぐらいかかるという説もある。第8期計画では、単純に従来どおりのことを回数を減らしながらもやりますみたいなことじゃなくて、新型コロナウイルスを踏まえてやり方も検討しながらみたいな書きぶりになるかと思う。ご配慮いただきたい。</p>
<事務局>	基本指針にもお示ししたとおり、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて内容を検討していきたい。
<委員>	<p>【高齢者の共助、活動支援について】</p> <p>高齢者がどんどん増える状況下、高齢者同士の共助、互いにボランティアの中で活動すること、地域の中で活動を根付かせて増やしていくことの施策を計画に盛り込んではどうか。</p> <p>シルバー人材センターも登録者はかなりあるが、実際、動いておられる方はその中のごく一部のように思われる。登録者を実際の活動につなげていくコーディネートを少し考えられてはどうか。</p> <p>せっかくのボランティアが倉吉でもたくさんおられると思うので、それを有効に使うことが大事な部分であり、考えていただきたい。</p>
<事務局>	ボランティア活動やシルバー人材センターの活動についても、十分に検討して計画に載せていきたい。